

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	流山おおたかの森駅前市有地活用事業			会計	款	項	目	大事	小事
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	商工振興課				
施策	5-1	商業の拠点づくりと地域密着型サービスの強化		主管課長	渋谷 俊之				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	流山おおたかの森駅周辺	意図	市の新拠点として発展する。
事業内容	本市の新拠点を形成するために、民間活力を活かした事業手法により、流山おおたかの森駅前市有地に行政・文化・商業・業務など複合的な機能を持つ施設を整備する。導入機能、事業スキーム及び事業条件等の検証を行った上で事業者の公募、選定を行い、施設を整備した後、市有地の一部と等価交換する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成23年度に「市有地活用基本方針」を策定。平成26年度に公募支援業務の受託者を選定し、「実施方針」を策定するとともに外部有識者等5名で構成する「事業者選定委員会」を発足した。平成27年度に優先交渉権者を決定し、基本協定並びに事業契約を締結し、平成28年度に設計図書を作成、財産交換・地代減免に関する議会の承認を得て建設工事に着手した。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	建設工事着手面積率	38.90	100	100	%	↑↑↑
②	流山おおたかの森駅周辺人口	25,952	28,840	32,036	人	↑↑↑	駅から半径1km内の大字の住民基本台帳人口（年度末）
③	TX流山おおたかの森駅1日当り乗車人数	34,702	36,491	38,183	人	↑↑↑	TXホームページから数値取得
④	東武流山おおたかの森駅1日当り乗車人数	27,619	28,455	29,458	人	↑↑↑	東武鉄道ホームページから数値取得
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果	流山おおたかの森駅周辺における賑わいの創出と交流人口の増加。						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度	・平成30年12月の工事完了、平成31年3月の施設引渡しに向けて各事業施工者と工事進捗等の協議調整を進めた。 ・ホール開館や窓口センターの開業に向けて協議調整を行った。 ・市発注の北口駅前広場の整備工事との工程調整を行った。 ・施設間を結ぶペデストリアンデッキ等の共用部分の管理協定の締結に向けて関係者間の調整を行った。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	10,297,500	10,068,000	9,888,000				
事業費(b)(円)							
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)	10,297,500	10,068,000	9,888,000				
人役・職員(人)	1.50	1.50	1.50				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	C 必要性は低下すると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	VII 終了（事業を終了すべき）					

(2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	公共施設が開業し、市の新たな交流拠点として市内外に情報を発信する。	③取組における課題(Check)	公共施設の開業、当事業で必須としたホテルの開業に至ったため、市有地活用事業としての役割は終了した。
②H30に実施した取組(Do)	工事竣工、施設の引渡しに向けて、事業者と施設所管課との調整を行った。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	